

■ 標準施工法のポイント

① 下地組み

- 耐火野地板支持材(たるき)は軽量形鋼 C-100×50×2.3 mm 以上を使用し、接合部は2本組みにして、606 mm 以内の間隔に組んでください。
- 母屋は荷重(固定、風圧、積雪)と支持スパンによって設定し、1時間耐火被覆を行ってください。
ただし、床面から梁下までの高さが4m 以上の場合は、耐火被覆を行う必要がありません(国土交通省告示第1399号)。
- 耐火野地板の施工前には、鉄骨下地の原寸チェックを行ってください。留め付け不良、板割れを防止しロス率の軽減になります。

② 耐火野地板の施工(切断、留め付け)

- 耐火野地板の接合部は軽く突き付ける程度としてください。
- 耐火野地板の切断は外装用カッター(ダイヤモンドチップソー)または、スレート用鋸を用いてください。
- 耐火野地板の留め付けは、リーマ付きドリルねじ(径:φ4 mm 以上、長さ:野地板厚さ+20 mm 程度)を使用してください。
留め付け間隔は300 mm 以内、端空き距離は25~35 mm 程度内側にしてください。

推奨ねじ	<ul style="list-style-type: none"> ・ニチハステンレスリーマテクスネジ (JK1240...φ4 mm×50 mm JK1250...φ5 mm×60 mm) ・日本パワーファスニング株式会社「ボードテックフレキ」 お問い合わせ先(052-733-1551)
------	--

※タッピンねじで施工する際には、必ず先孔を空け、野地板厚さ+15 mm 以上の長さの製品を使用してください。

禁止 エアーガンなどによる釘での留め付けは、長期での振動や熱の影響で保持力が低下する恐れがありますので行わないでください。

③ 屋根葺材

- 耐火野地板の施工後はすみやかにアスファルトルーフィングを施工してください。
耐火野地板が雨に濡れた場合は、充分乾燥させた後にアスファルトルーフィングを施工してください。雨に濡れたままの施工はしみ、汚れ、波打ち、強度低下の原因になります。
- 屋根葺材は国土交通大臣認定の不燃材料を屋根工事共通仕様書(JASS-12)に準じて施工してください。
※耐火野地板への釘による施工は、保持力が不確実になるので使用しないでください。
- 詳細部の納まりは屋根材メーカーまたは設計仕様に準じてください。

④ 塗装

- 耐火野地板が直接天井面となる場合は、カラー塗装品(CPN1842・CPN1851)を使用するか、耐アルカリ性に優れたアクリル系またはウレタン系の塗料でシーラー塗布(下塗り)から行ってください。(お問い合わせ先:P.24 参照)

⑤ 留意事項

1. 使用環境に関する制限
 - ・常時水に接する使用は避けてください。
2. 保管・運搬時に関する注意
 - ・保管の方法は直射日光や水分を避けるよう平坦な屋内とし、現場で保管する場合は飼い木(4本)、パレットなどの上に平積みし(高さ1m 以内)、雨に濡れないようシートなどをかけてください。
※ふくごうくんは、濡れますとシミが発生するおそれがありますので、必ずシート掛けを行ってください。
 - ・鋭角な器物との衝突や角当ては、損傷の原因になりますので避けてください。
3. 施工時・作業時の注意 安全確保に留意し、踏み抜き防止や墜落防止などの措置をとってください。
 - ・局部荷重や衝撃により割れることがありますので、施工時には下地のない箇所には乗らず、たるきの上を歩いてください。
踏み抜き防止、墜落防止のため、足場板を使用するか安全ネットを張ってから作業を行ってください。
 - ・重量物(屋根葺材など)は大梁のある部分へ敷板を置き、分散させて置いてください。
 - ・強風下での施工は風にあおられやすいので行わないでください。
4. 粉塵注意
 - ・切断時には粉塵が発生しますので、切断器具には粉塵吸引装置を設け、また作業者は正規の作業服を着用の上、防塵マスク、防護メガネなどの使用をお願いします。
 - ・狭い場所での多量の切断作業を行う場合は、十分な外気の導入を行い粉塵量を低下させてください。